

研究 主題	自分の考えを深め、伝え合うことのできる児童の育成 — 「話すこと・聞くこと」の授業づくりと系統的・段階的な指導の工夫を通して —
----------	---

第4学年国語科学習指導案

指導月日 令和2年7月14日

所属校名 登米市立北方小学校

氏名 小野寺 紀子

1 単元名 「話の中心を考えながら友達の話进行こう」

2 単元の目標

- (1) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。 [知識及び技能] (2) ア
(2) 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。 [思考力、判断力、表現力等] A (1) エ
(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 単元で取り上げる言語活動と教材

言語活動：必要なことを記録したり質問したりしながら友達の説明を聞く活動。

(関連：[思考力・判断力・表現力等] (2) ア)

教材：「たしかめながら話を进行こう」（東京書籍 新しい国語4上）

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	①「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A (1) エ)	①進んで必要なことを記録したり、質問したりしながら聞き、学習課題に沿って、質問の仕方についてまとめようとしている。

5 単元観

本単元は、第3学年及び第4学年の内容の[思考力、判断力、表現力等]の「A話すこと・聞くこと」の(1)「エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと」に重点を置く指導事項として設定したものである。

本単元では、話を聞く目的を決め、分からないことや確かめたいことについて質問しながら聞く活動を通して、自分が聞きたいことの中心を捉えて聞くことができるようにし、その大切さに気付かせたい。そのため、自分が聞きたいことを整理し、一番知りたいことについて質問しながら聞く活動に取り組みせていく。その際、どのような質問だと知りたいことに迫ることができるか、どのような聞き方が良いかについて考えたり、情報を整理しながら聞いたりする大切さに気付かせていく。

6 児童の実態 [第4学年1組28名]

児童は、第3学年で、話のまとまりの数や順序に気を付けて、要点をメモを取りながら聞くことにつ

いて学習してきている。インタビューして分かったことや大事だと思うことをメモに取ろうとする意識は高まってきており、日常生活や他の教科等の学習に生かしている児童も多い。しかし、明確な目的意識を持たずに話を聞いていたり、話のまとまりごとの関連を考えずに聞いていたりして、相手の話の内容が正確に理解できていない児童もいる。そこで、「話すこと・聞くこと」の学習活動において、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えて聞くことができるようにするために、自分が聞きたいことの中心はどのようなことかを考えさせ、分からないことは質問して情報を得て、自分が最も知りたいと思うことを理解できるよう指導していく必要がある。

7 指導観

単元の導入で「北方小図書館アドバイザーになって1年生におすすめの本をしょうかいしよう」という課題を児童に提示し、目的意識や学習への意欲を持続させながら学習に取り組ませていく。

児童の実態より、自分が聞きたいことの中心を考えて聞くことで、自分の知りたい情報が得られることや目的意識を持って話を聞くことの大切さを意識させる必要がある。

始めに、これまでの学習を振り返り、人の話を聞く際に、自分の知りたいことを聞く質問にはどのようなものがあつたかについて意見を出し合うことで、聞く目的に合わせた質問があることを理解させる。次に、1年生に紹介する本の内容や説明の際の話し方について確かめるために、自分が一番大切だと思うことは何かについて具体的に考えさせる。考えたことを基に、グループで質問しながら聞く活動に取り組ませていく。聞く際は、聞き手が話の内容を確実に理解し、考えを整理することができるようメモを取りながら聞かせる。途中で、質問の仕方や質問の内容、聞く活動の良かった点等について、気付かせたい観点について発問し、振り返らせる。自分が一番知りたいことについて考え、質問しながら話を聞くことで、自分が聞きたいことの中心へ迫ることができることに気付かせたい。そして、自分が聞きたいことの中心を意識して話を聞くことができるようにさせていきたい。

8 研究主題との関連

本研究は、自分の考えを深め、伝え合うことのできる児童の育成を目指している。そのために、以下の手立てを講じて研究主題に迫っていく。

(1) 学びにつながる振り返りの場の設定と発問の工夫

質問することを通して自分が一番知りたいことについて情報を得ることができているかどうか、児童に振り返らせる場を第3時と第4時で設定していく。振り返りは、教師の発問を通し、その観点に基づいて行わせる。その後、グループで聞く活動に生かすことができるよう、振り返りで気付いたことを発表させ、学級全体で共有していく。

(2) 可視化のためのメモの活用

第3時と第4時で質問しながら聞く活動をする際、友達の話の内容を正確に理解することができるよう、メモを取りながら話を聞かせる。説明を聞いた際のメモに加え、自分や友達が質問した際にもメモを取らせ、書かれた情報をワークシート上で整理したり、分類したりさせる。どの本がおすすめかについて考える際に、メモを活用して自分の考えを形成させていく。

(3) 身に付けさせたい資質・能力を指標とした見取りによる支援

指導と評価を一体化させ、児童に確実に「話すこと・聞くこと」の資質・能力を身に付けさせたい。本単元では、「質問しながら聞く」「自分が聞きたいことの中心を捉える」「自分の考えをもつ」を観点として指導と見取りを行うので、この3点を本時で目指したいこととして児童に知らせ、課題意識を持たせる。基準を設定し、到達が見られない児童には具体的な支援を行い、どの児童にもできるようになったという実感を持たせたい。

9 単元指導と評価の計画（5時間扱い 本時3／5）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法等
1	○学習の見通しを持つ。 北方小図書室アドバイザーになって、1年生におすすめの本をしょうかいしよう。 ○これまでの自分の聞く体験を思い起こし、聞きたいことが十分に聞けた体験や十分に聞けなかった体験について話し合う。 ○どのような質問が考えられるかについて出し合う。出し合った質問を類型化したり、まとめたりする。	・1年生におすすめの本を選んで紹介することを知らせ、児童の学習への意欲を高める。1年生への紹介の方法は、学習後にグループごとに1年生に説明するとともに、説明した時の言葉を使っておすすめポスターを作成させ、図書室に掲示するようにする。 ・グループ内で、友達のおすすめの本についての説明を聞いたり、分からないことや知りたいことを質問したりして、グループで一番おすすめの本を決めることを知らせる。 ・どのようなことに気を付けて聞いたり、どのように質問したりすると良いかについて学習することを知らせる。 ・話合いから、自分の聞きたいことを明らかにして聞き、知りたいことを聞くためには質問することが大切であることに気付かせる。 手立て3 <u>身に付けさせたい資質・能力を指標とした見取りによる支援</u> 「質問しながら聞く」「自分が聞きたいことの中心を捉える」「自分の考えをもつ」を本単元で目指したいこととして児童に知らせ、課題意識を持たせる。	
2	○自分が聞きたいことを整理し、聞きたいことの中心について考える。 ○メモの取り方についてまとめる。	・友達の本についての説明を聞く際、自分はどのようなことについて聞きたいか、なぜそのことを聞きたいのかについて考えさせ、ワークシートに書かせる。 手立て1 <u>学びにつながる振り返りの場の設定と発問の工夫</u> それぞれの考えを発表させ、紹介する本の内容や説明の際の話し方が1年生に適しているかどうかを確認するために、自分が一番大切だと思うことが、自分の知りたいことであることに気付かせる。 ・あらかじめ考えた質問だけでなく、発表を聞いている時に気になったことも質問すると、より多くの情報を知ることができることに気付かせる。 ・友達の話を理解するために、メモを取る必要があることに気付かせる。 ・話を聞く際のメモの取り方として、どんなメモの取り方が良いかを考え、メモの取り方についてまとめる。	
3	○友達のおすすめの本について説明を聞き、自分が知りたいことについて詳しく知るために質問をしながら聞く。	・1年生におすすめの本を紹介するために、選んだ本の内容についてグループ内で互いの説明を聞き、どの本をグループの代表として紹介するかを決めさせる。	

	○互いの説明を質問しながら聞く活動について振り返りを行い、どのような質問をすると自分が知りたいことについて聞くことができたか考える。 ○どの本が良いと思ったかについて、自分の考えと理由をワークシートに書く。	手立て2 <u>可視化のためのメモの活用</u> 話を聞く際や、質問する際には、メモを活用させながら、質問させる。 手立て1 <u>学びにつながる振り返りの場の設定と発問の工夫</u> グループ内の質問しながら聞く活動について振り返らせ、どのような質問内容だと知りたい情報について知ることができたかを考えさせる。質問の仕方についても同様に考えさせる。 ・まだ説明していない児童について、グループ内で再度質問しながら聞くようにさせる。 ・友達の説明を聞き、どの本が良いと思ったかについて、本の内容で理解したことや説明の仕方など理由を明らかにしてワークシートに書かせ、発表させる。	[知識・技能①] <u>ワークシートの記述</u> ・友達の発表や質問して分かった情報を、分けたり関係付けたりしているかどうかの確認
4	○新たなグループで友達のおすすめの本についての説明を聞き、自分が知りたいことを聞くために質問しながら聞く。	・前時を振り返らせ、どんな質問をすると自分の知りたいことについて情報を得ることができたかを発表し合う。 ・新たに編成したグループごとに、質問しながら聞く活動に取り組ませる。 手立て2 <u>可視化のためのメモの活用</u> 話を聞く際や、質問する際には、メモを活用させながら、質問させる。 手立て1 <u>学びにつながる振り返りの場の設定と発問の工夫</u> グループ内の聞き合う活動について振り返らせ、どのような質問内容だと知りたい情報について知ることができたかを考えさせる。質問の仕方についても同様に考えさせる。 ・話し手の言いたいことをまとめ、どの本がおすすめするのにふさわしいと考えたか、理由を明らかにして自分の考えをワークシートに書かせ、発表させる。	[思考・判断・表現①] <u>観察・ワークシートの記述</u> ・友達の説明を聞いてどの本の内容や説明の仕方が良いと思ったかの記述の確認
5	○学習を振り返る。 ○学習の感想を書く。	・自分の聞きたいことの中心について聞くことができたか、質問の仕方について気付いたことは何か、これからどんな場面で活用していきたいかについて文章にまとめさせる。	[主体的に学習に取り組む態度①] <u>ワークシートの記述・観察</u> ・どんな質問をすると知りたい情報を得られたかを振り返り、質問の仕方をまとめようとしているかの確認

10 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 「知識・技能」の評価

【知識・技能①】 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(第3時)

【知識・技能①】は、友達の説明を聞いて記録しているワークシートの記述内容から評価する。

ここでは、友達の本についての説明を聞く際、自分はどのようなことについて詳しく知りたいかについて考えさせ、ワークシートに書かせる。それが、「自分の聞きたいことの中心」であることを学級全体で確かめる。自分の聞きたいことの中心と友達の説明はどのようにつながるのか、友達はなぜその本をおすすめの本として選んだのかなど、情報を整理しながら友達の話を理解することの大切さに気付かせる。その後、メモを取って聞いた情報を児童が視覚的に把握するために、見出しや記号の活用など、メモの取り方について指導する。そこで、自分の聞きたいことの中心について考え、情報を整理するためのメモの取り方を理解している児童を「おおむね満足できる」状況（B）とした。

具体的には、グループの何人かの説明を聞いて、その中の一人の説明内容について、分かったことをメモに取り、その言葉や文と自分が知りたいことが関連している部分を線でつないだり、関連しているもの同士を丸で囲んだりしている児童について、自分が知りたいこととそれに沿った情報になっているかどうか理解しており、複数の情報と情報との関係について理解していると判断し、「おおむね満足できる」状況（B）とする。

一方、グループの何人かの説明を聞いて、誰の説明についても自分が知りたいこととメモに取った言葉を線でつないだり、共通の情報を丸囲みしたりできず「努力を要する」状況（C）と判断した児童には、児童のメモを基にしながら「自分が聞きたいことの答えになっている部分はどこか」「一年生が楽しめることについて話したことは他にはないか」などについて問い掛け、関係のある情報を線でつないだり、丸で囲んだりして、情報と情報の関係を理解できるようにしていく。

なお、グループの友達の説明を聞き、グループ全員それぞれの説明について自分が聞きたいことと分かったことを線でつないだり、丸囲みをしたりして理解している児童を「十分満足できる」状況（A）とする。

(2)「思考・判断・表現」の評価

【思考・判断・表現①】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。（第4時）

【思考・判断・表現①】は、友達の説明を聞いて、自分の知りたいことについて質問している様子の観察とどの本が良いと思ったかについてのワークシートの記述の確認から評価する。

ここでは、話を聞く際に、「必要なことを記録したり質問したりしながら聞くこと」「自分が聞きたいことの中心を捉えること」「自分の考えをもつこと」の3点を指導する。そのため、質問しながら聞き、自分が一番知りたいことを捉えて、どの本の内容が1年生にふさわしいと思ったか、だれの説明の仕方が1年生に伝わりやすいと思ったかを考えて記述している児童を「おおむね満足できる」状況（B）とする。

具体的には、自分の知りたいことを質問し、どの本の内容が良いと思ったか、だれの説明の仕方が伝わりやすいと思ったかについてと、その理由をワークシートに記述していれば、自分の考えを持っていると判断し、「おおむね満足できる」状況（B）と評価する。

一方、質問できていない児童、質問して聞いていても自分の考えをワークシートに記述できていない児童、又はどの本の内容が良いと思ったかについては書けていても理由が記述できていない「努力を要する」状況（C）と判断した児童には、教師は以下の支援を行う。質問ができていない児童には、前時までにどんなことを知りたいと考えていたかを振り返らせ、ワークシートに書いたことを基にしながら質問させるようにする。自分の考えや理由が記述できていない児童には、タブレットを用いて友達の話す様子について振り返らせたり、友達の説明を聞いた際のメモの内容を振り返らせたりすることで、「1年生だったらどの本の内容に興味を持つと思うか。それはなぜか。」「だれの説明の仕方が1年生に伝わりやすいと思ったか。特にどの部分についてそう思うか。」などについて問い掛け、理由を明らかにして

自分の考えを持つことができるようにしていく。

なお、自分の知りたいことについて質問し、説明を聞いたり、自分の考えと比べたりして気になったことについて質問しており、更にどのおススメの本が良いか考えた理由を友達の説明を引用して書いている児童を「十分満足できる」状況（A）とする。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

【主体的に学習に取り組む態度①】進んで必要なことを記録したり、質問したりしながら聞き、学習課題に沿って、質問の仕方についてまとめようとしている。（第5時）

【主体的に学習に取り組む態度①】については、自分が一番知りたいことを基に聞いたことを質問したり、聞いたことについて考え、質問したりしている様子から評価する。

ここでは、自分の知りたいことを基に質問したり、メモを取ったりしておススメの本について考える際に、どんな質問をすると知りたい情報を得られたかを振り返り、質問の仕方をまとめようとしている児童を「おおむね満足できる」状況（B）とする。

具体的には、説明を聞く活動の中で自分が知りたい情報を得るために試行錯誤しながら質問したり、メモを取ったりして得られた情報を比べ、どんな質問をすると良いかを自分なりにワークシートにまとめていけば、学習課題に沿って、知りたい情報を得るための質問の仕方をまとめていると判断し、「おおむね満足できる」状況（B）と評価する。

一方、友達や教師との関わりを通して、どんな質問をすると自分の知りたい情報が得られるか考えている様子が確認できない「努力を要する」状況（C）と判断した児童は、教師がワークシートの内容を一緒に確認し、「自分が1年生だった時は、本のどんなところに一番興味があったか」、「自分がおススメの本を選んだ時は」などについて問い掛け、自分が一番知りたいことを聞き出す質問を考えることができるように支援していく。

なお、自分の知りたいことだけでなく、話を聞いて確かめたいと思ったことについて積極的に質問していて、どのような質問をすると自分の最も知りたいことを聞くことができるかをまとめようとしていることの記述が確認できた児童は「十分満足できる」状況（A）にあるとする。

11 本時の計画

(1) 本時の指導に当たって

本時は、前時まで考えた自分の知りたいことを基に質問したり、記録したりしながら聞く学習である。自分の知りたいことについてあらかじめ児童に考えさせ、質問することで、自分の知りたいことの中に迫っていくことができることを理解させたい。また、聞く活動の途中で振り返りを行わせ、質問することで知りたいことについて情報を得ることができることや、どんな質問だと知りたいことを詳しく知ることができるのかについて気付かせていきたい。相手の話を正確に理解するためにメモを取ったものを、自分の考えを整理する際に活用させることで、メモを取ることの大切さやメモの取り方についても考えさせたい。

(2) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問及び指示 ・予想される児童の反応	形態	指導上の留意点	評価
導入	1 本時の課題を知る。 1年生へのおススメの本について、自分の知りたいことを確かめながら友達の説明を聞こう。	一斉	・本時は、1年生におススメの本を紹介するために、選んだ本の内容について説明を聞く学習であることを知らせる。	

5分	○今日の学習で目指したいことは、質問して聞くこと、自分の知りたいことについて聞いて理解すること、自分の考えをもつことの3つです。		手立て3 <u>身に付けさせたい資質・能力を指標とした見取りによる支援</u> 「質問しながら聞く」「自分が聞きたいことの中心を捉える」「自分の考えをもつ」を本時で目指したいこととして児童に知らせ、課題意識を持たせる。
展開 35分	2 グループごとに、おすすめの本について友達の説明を聞く。 ○聞く時は、友達の説明の中で、後から確かめる時に必要だと思った言葉について、メモを取りましょう。 ○自分の知りたいことについて話している部分はどこかを考えながら聞きましょう。 ○もっと聞きたいことや分からなかったことについて、質問しましょう。 3 聞く活動について振り返る。 ○どんな質問をしましたか。 ・なぜその本をおすすめするのですか、という質問です。 ・1年生が読める字で書いてありますか、という質問です。 ○何を確かめるために質問をしましたか。 ・自分の知りたいことは、その人がどうしておすすめするのかの理由です。 ・1年生におすすめする時に一番大事だと思うことは、自分で読めるかどうかということです。 ○友達は他にどんな質問をしていましたか。 ・何ページある本ですか。 ・自分ではどんなところが楽しいと思いましたか。 ○他に詳しく情報を教えてもらうにはどんな質問が考えられますか。 ・例えばどんな〇〇がありますか、です。 ・～のところが分からないので、詳しく教えてください、です。 ○聞いていたときに使った友達のメモを紹介します。どんなところを工夫してメモを取っているか、気付いたことを発表しましょう。 ・矢印でつないであるから分かりやすいです。	グループ ・グループごとに説明を聞く際は、説明者は1年生に話すような話し方で説明することを留意させる。 ・聞き手はメモを取りながら説明を聞き、質問して自分が知りたいことについて詳しく聞くようにさせる。また、質問することで、分からないことを確かめたり、もっと知りたいことについて教えてもらったりさせていく。5分を目安に次の説明者と交代させ、質問しながら聞く活動を進めさせる。 手立て2 <u>可視化のためのメモの活用</u> 説明を聞いたり、質問して分かったりしたことを書き取り、情報を整理させる。 手立て1 <u>学びにつなげる振り返りの場の設定と発問の工夫</u> 「何を確かめるためにその質問をしたのか」「詳しく情報を教えてもらうにはどんな質問が考えられるか」について発問し、個人内で振り返りを行わせる。 ・始めに、ワークシートを活用し、自分の聞く活動について振り返らせていく。 ・気付いたことを発表し合うことで、自分の知りたいことをあらかじめ決めてから話を聞くと、知りたいことについて迫ることができること、質問することで知りたいことが詳しく分かることに気付かせる。 ・数人の児童のメモを取り上げ、工夫が見られる点を全体に紹介する。	[知識・技能 ①] <u>ワークシートの記述</u> ・友達の発表や質問して分かった情報を、分けたり関係付けたりしているかどうかの確認

	・まとまりごとに分けて書いてあるので、後から見やすいと思います。 4 学級全員で、友達の説明を聞く。 ○今、振り返ったことを生かして、全員で〇〇さんの説明を聞きましょう。		・振り返りを生かして、全員で聞く活動に取り組ませる。友達の説明を聞く際は、自分の一番知りたいことを考えながら聞くようにさせ、必要な語句についてメモを取らせる。 ・説明の後、数名の聞き手を指名し、自分の知りたいことについて質問させる。知りたいことについて分かった場合は、もっと知りたいと思ったことなども質問させていく。	
終末 5分	5 本時の振り返りと次時予告を聞く。	一斉	・本時の導入で児童に示した3つの観点を想起させ、本時の感想をワークシートに書かせる。数名の児童に発表させる。次時は、グループ編成を変えて説明を聞く活動に取り組むことを知らせる。	

(3) 本時における評価の実際

評価の観点	評価規準（B）	十分満足できる状況（A）	努力を要する状況の児童への手立て
知識・技能	グループの何人かの説明を聞いて、その中の一人の説明内容について、分かったことをメモに取り、その言葉や文と自分が知りたいことが関連している部分を線でつないだり、関連しているもの同士を丸で囲んだりしている	グループの友達全員の説明について、自分が知りたいことと分かったことを線でつないだり、丸囲みをしたりして理解している。	児童のメモを基に「自分が聞きたいことの答えになっている部分はどこか」「1年生が楽しめることについて話していることは他にないか」などについて問い掛ける。

(4) 準備物

教科書、ノート、ワークシート、児童用タブレット、大型テレビ

(5) 板書計画

○聞く活動で気付いたこと

- ・しつ問するとかわしく分かる
- ・知りたいことを決めておいたので、しつ問して聞くことができた
- ・聞いたことを「うですよね」とかくにんすることも大事
- ・メモがあると、もっと知りたいことがたしかめられる

自分の考えをもつ

自分の知りたいことについて聞いて理かきする

しつ問しながら聞く

一年生へのおすすめの本について、自分の知りたいことを確かめながら友達の説明を聞く。

- A（国語）・O8 -

研究 主題	自分の考えを深め、伝え合うことのできる児童の育成 — 「話すこと・聞くこと」の授業づくりと系統的・段階的な指導の工夫を通して —
----------	---

第4学年国語科学習指導案

指導月日 令和2年9月4日

所属校名 登米市立北方小学校

氏名 小野寺 紀子

1 単元名 「伝えたいな、わたしが成長したこと」

2 単元の目標

(1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話の中で使うことができる。

〔知識及び技能〕(1)オ

(2) 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ウ

(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3 単元で取り上げる言語活動

言語活動：自分が成長したことが聞き手に伝わるように話す活動。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A(2)イ)

教材：「聞いてほしいな、心に残っている出来事」（東京書籍 新しい国語4下）

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話の中で使っている。((1)オ)	①「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ)	①積極的に、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、今までの学習を生かして聞き手に伝わるように話そうとしている。

5 単元観

本単元は、第3学年及び第4学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」の(1)「ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること」に重点を置く指導事項として設定したものである。

本単元では、話の中心を明確にして聞き手に分かりやすく伝えたり、場面を意識して話したりするために表現を工夫する大切さに気付かせたい。そのため、話の中心を明確にさせるとともに、伝えたいことを伝えるためにどのような話し方の工夫をすると良いかを考えさせ、表現できるようにさせていく。表現できるようにするために、話し方の工夫の観点を持たせて繰り返し練習させるとともに、形態を変えて練習に取り組ませる。単元を通して、振り返りの場を設定し、いろいろな話し方の工夫に気付かせ、児童が自分の話し方に生かすことができるようにしていく。

6 児童の実態〔第4学年1組28名〕

児童は、第3学年で、筋道を立てて話すことについて学習してきている。また、大事なことや伝えたいことを伝えるために、強弱や間の取り方を工夫することについても学習している。事前の実態調査では、目的に合った話題を選ぶことができ、場所や聞き手の人数を意識した声の大きさで発表できている児童も多い。しかし、自分の話の中心を明確にして、話の内容が相手に伝わるよう意識して言葉の抑揚や強弱などを工夫して話している児童は少ない。そこで、「話すこと・聞くこと」において、話の中心を明確にして聞き手に分かりやすく伝えたり、場面を意識して話したりすることができるようにするために、話す際の具体的な工夫の仕方を指導していく必要がある。

7 指導観

単元の導入で「二分の一成人式に向けて、自分の成長したことを発表しよう」という課題を児童に提示することで、目的意識や学習への意欲を持続させながら学習に取り組ませていきたい。

児童の実態より、自分の伝えたいことの様子やその時の気持ちを聞き手に伝えるためには、聞き手に伝わるように工夫して話すことの大切さを理解させる必要がある。

始めに、これまでの学習を振り返らせ、話の中心や話す場面を意識し、伝えたいことに合わせて強弱や間の取り方などの話し方の工夫が必要であることを理解させる。また、行動や気持ちを表す語句を分類する学習を通して、類似の意味を持った語句の中でも一番適した語句があることを理解させる。次に、自分の一番伝えたいことを意識させながらスピーチメモを作成させ、自分の伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えるためには、話し方をどのように工夫すると良いかを考えさせる。ペアやグループで話す練習に取り組ませ、振り返りを基に、自分の伝えたいことがより伝わりやすくなる話し方になるよう工夫させ発表させる。発表の場を設けることで、児童に確実に相手や場を意識した話し方の工夫ができるようにさせていきたい。

8 研究主題との関連

本研究は、自分の考えを深め、伝え合うことのできる児童の育成を目指している。そのために、以下の手立てを講じて研究主題に迫っていく。

(1) 学びにつながる振り返りの場の設定と発問の工夫

聞き手に伝わるように話し方の工夫を考えられているか、工夫しようと考えたことを実際に生かして話せているかについて、児童に振り返らせる場を第4、5時で設定していく。振り返りは、教師の発問を通し、その観点に基づいて行わせる。振り返りを通して友達の表現の工夫を具体的な姿で学び、その後の自分の話し方に生かすことができるよう、振り返りで気付いたことを発表させ、学級全体で共有していく。

(2) 可視化のためのメモの活用

第4時及び第6時で、友達が伝えたいことを伝えるためにどんな話し方の工夫をしているかについてメモを取りながら話を聞かせる。話し方の工夫に着目したメモを取らせることで、友達が一番伝えたいことは何か、聞き手に分かりやすく伝えるためにどんな工夫をしていたかなどを考えたり、感想を持ったりと、自分の考えを形成させていく。

(3) 身に付けさせたい資質・能力を指標とした見取りによる支援

指導と評価を一体化させ、児童に確実に「話すこと・聞くこと」の資質・能力を身に付けさせたい。本単元では、「話の中心を意識する」「話す場面を意識する」「話し方を工夫する」を観点として指導と見取りを行うので、この3点を本単元のめあてとして毎時児童に知らせ、課題意識を持たせる。さらに、「話し方を工夫する」は、「強弱や抑揚に気を付ける」など児童がイメージしやすく振り返りの観点にできるよう、毎時間具体的に児童に提示していく。基準を設定し、到達が見られない児童には具体的な支援を行い、どの児童にもできるようになったという実感を持たせたい。

9 単元指導と評価の計画（6時間扱い 本時5／6）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法等
1	○学習の見通しを持つ。 二分の一成人式に向けて、自分が成長したことを発表しよう。 ○本単元の学習のめあてを知る。 ○これまでの自分の話す体験を振り返り、どんな発表だと聞いている人に伝わるかについて話し合う。 ○どのような話し方をすると良いのかまとめる。 ○声の表情について考える。	・二分の一成人式に向けてこれまでの自分を振り返り、成長したことを発表することを知らせ、児童の学習への意欲を高める。 ・成長したことについてスピーチメモを書き、練習をして話すという学習の流れを知らせる。また、聞き手は学級の友達全員であることを知らせる。 ・この単元の学習のねらいを示し、学習の見通しが持てるようにする。 手立て3 <u>身に付けさせたい資質・能力を指標とした見取りによる支援</u> 「話の中心を意識する」「話す場面を意識する」「話し方を工夫する」を本単元の学習のめあてとして児童に知らせ、課題意識を持たせる。 ・これまでの体験から、自分の伝えたいことがうまく伝わった話し方やうまく伝わらなかった話し方について話し合わせる。 ・学習のめあてと関連させながら、話をするときには話の中心と話す場面を意識することが大事であることを確かめさせる。 ・例文を用い、どのような話し方があるか聞き手の立場で、気持ちに合った声の表情について考えさせる。また、自分の伝えたいことを効果的に伝えるために、抑揚、強弱、間の取り方など表現を工夫することの大切さに気付かせる。	
2・3	○既習事項を基に、話の中心が伝わりやすくなる話の組み立て方について考える。 ○自分の話したい話題を決め、材料を集める。 ○自分の一番伝えたいことが聞き手に伝わるように、話の組み立て方を考える。 ○行動や気持ちを表す語句について、意味の似ている語句や対義語を見付け、いろいろな表現があることを知る。	・いろいろな型の例文を提示する。話の中心が聞き手に伝わるようにするための話の組み立て方に気付かせる。 ・ワークシートを用いて、自分が成長したことについて話題を決めたり、材料を集めたりさせていく。 ・どんなことを伝えたいか、その時の様子や気持ちはどうだったかなど、テーマと具体を考え、ワークシートを活用してスピーチメモを構成させるようにする。 ・スピーチメモを参考にしながら、実際に話してみるようにさせ、話しにくい部分の修正点や加えたいことをメモに書かせていく。 ・学習のねらいを示し、見通しを持たせる。 手立て3 <u>身に付けさせたい資質・能力を指標とした見取りによる支援</u> 「話の中心を意識する」「話す場面を意識する」「話し方を工夫する」を本単元の学習のめあてとして児童に知らせ、課題意識を持たせる。 ・行動や気持ちを表す語句を複数提示し、意味の似ている語句や対義語になる語句を分類させる。いろいろな表現を用いて行動や気持ちが表せることに気付かせる。 ・自分の伝えたいことに一番合った語句を考	〔知識・技能①〕 ワークシートの記述 ・話の中の人物の行動や気持ちを表す部分で、学習した語句や自分で見付けた語句を活用しているかの確認

	○自分のスピーチメモを見直し、書き直したり、書き加えたりさせる。 ○スピーチメモを参考に、どのように話し方を工夫するかを考える。	えて話すことも、話し方の工夫の一つであることに気付かせる。 ・学習した語句を参考にしながら、自分の伝えたいことがより伝わる表現になるよう、スピーチメモの見直しをさせる。 ・実際に話してみるようにさせ、修正点や加えたいことをメモに書かせていくようにさせる。	
4 ・ 5 ・ 6	○話し方の工夫を考え、聞き手に伝わるような話し方になるよう練習することを知る。 ○スピーチメモに書き込み、工夫しながら話す練習をする。 ○自分の話す様子を映像で確認し、自分の話し方の特徴や、話し方の工夫が実際の話し方にどのように表れているかに気付く。 ○抽出児童の話聞き、気付いたことを発表し合う。	・本時は、聞き手に伝わるように話し方を工夫しながら話す練習に取り組む事を知らせる。 ・学習のねらいを示し見通しを持たせる。 手立て3 <u>身に付けさせたい資質・能力を指標とした見取りによる支援</u> 「話の中心を意識する」「話す場面を意識する」「話し方を工夫する」を本単元の学習のめあてとして児童に知らせ、課題意識を持たせる。 ・話す際は、場所は教室で、聞き手は学級の友達全員であることを確かめさせる。 ・一番伝えたいことが伝わるように話し方の工夫を考えさせる。工夫する点や内容をスピーチメモに書き込ませる。 ・本時では、話し方の工夫の中でも、強弱や間の取り方、気持ちを表す話し方などを特に工夫して練習することを伝える。 ・話し方の工夫を書き込んだメモを基に、自分で実際に話しながら聞き手に伝わりやすい話し方を試すようにさせる。 ・自分の話す様子をタブレットに録画させ、映像を見て工夫したことが話し方の中に表れているかどうかを確かめさせる。表れていない場合は修正したり変更したりさせる。 手立て1 <u>学びにつながる振り返りの場の設定と発問の工夫</u> 「工夫して話すことができていますか」「もっと工夫したいところはどんなことですか」と発問し、話し方を工夫することについて自分の話す様子を見て振り返ること確かめさせる。 ・数回の練習後、強弱や間の取り方などに工夫の見られる児童の様子を取り上げ話を聞かせる。聞き手には、話し手の抑揚、強弱、間の取り方に留意して聞くようにさせ、気付いた点をワークシートに書かせる。 手立て2 <u>可視化のためのメモの活用</u> 話し方をどのように工夫しているかを意識して友達の話聞かせ、ワークシートに、工夫していると感じたところを書かせ、聞き手の立場から話し方の工夫に気付かせていく。 ・抽出児童の話について、全体で振り返らせる。	

○自分のスピーチに生かしたいことをスピーチメモに書き加え、練習する。	手立て1 <u>学びにつながる振り返りの場の設定と発問の工夫</u> 「〇〇さんの一番伝えたいことは何だと感じましたか」について発表させ、話し手の一番伝えたいことと合っているか確かめさせる。その後「どんな話し方の工夫からそれが伝わりましたか」と発問し、話し方を工夫することについて抽出児童の具体的な様子で全員に確かめさせる。 ・気付いた点や良かった点を発表させる。 ・全体で共有した後、自分のスピーチについて振り返らせる。もっと工夫してみたいことを書き加えさせ、練習に取り組ませる。	
○前時までの話し方の工夫について確かめ、本時では相手を見て話すことを意識して練習することを知る。 ○抽出児童の話を聞き、相手を見て話すことについて気付いたことを発表し合う。 ○グループで練習に取り組む。	・学習のねらいを示し、見通しを持たせる。 手立て3 <u>身に付けさせたい資質・能力を指標とした見取りによる支援</u> 「話の中心を意識する」「話す場面を意識する」「話し方を工夫する」を本単元の学習のめあてとして児童に知らせ、課題意識を持たせる。 ・前時までの話し方の工夫について確かめさせ、本時では特に相手を見て話すことを意識して練習に取り組むことを伝える。 ・抽出児童に、聞き手を見ながら話すことを意識させ、全体の前で話をさせる。聞き手と話し手のそれぞれの立場から気付いたことを発表させ、相手を見て話すことで、聞き手に伝わっているかが分かり、反応を見て話すことができることを確かめさせる。聞き手の反応を見て、自分の話のどの部分を工夫して話した方が良いか考えることの大切さに気付かせる。 ・意識して練習したいことをワークシートに書かせる。 ・相手を見て話すことを意識しながら、グループで練習に取り組ませる。 ・グループでの練習について振り返らせる。	[思考・判断・表現①] <u>観察・ワークシートの記述</u> ・伝えたいことが伝わりやすくなるように、抑揚や強弱、間の取り方を工夫しようと考えたことをスピーチメモに書き、それを基にして聞き手に伝わるように表現を工夫し、相手を見て話しているかの確認
○学級の友達全員に発表する。 ○学習の振り返りを行う。	手立て1 <u>学びにつながる振り返りの場の設定と発問の工夫</u> 「相手を見て話すことはできましたか」「相手を見て話し、聞いている人の様子から分かったことは何ですか」と発問し、相手を見て話す際の聞き手の反応で気付いたことについて振り返らせる。 ・振り返りを生かして、自分の話し方を工夫しながら練習させる。 ・学習のねらいを示し見通しを持たせる。 手立て3 <u>身に付けさせたい資質・能力を指標とした見取りによる支援</u> 「話の中心を意識する」「話す場面を意識する」「話し方を工夫する」を本単元の学習のめあてとして児童に知らせ、課題意識を持たせる。	

	・学級の全員の発表を行うことを知らせる。 ・練習したことを生かして話すようにさせる。 ・発表を聞く際は、話し手の話し方の工夫に留意して聞くようにさせ、良かった点をワークシートに書かせる。 手立て2 可視化のためのメモの活用 話し方の工夫を意識して友達の発表を聞かせ、工夫していると感じたところをワークシートに書かせ、話し方の工夫に気付かせていく。 ・発表後に、学習全体の振り返りを行う。	[主体的に学習に取り組む態度①] ワークシート・観察 ・学習した話し方の工夫を参考に、友達の話聞いて話し方の工夫に気付いたり、自分でも取り入れようと考えていたりしているかの確認
--	---	--

10 観点別学習状況の評価の進め方

(1)「知識・技能」の評価

【知識・技能①】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話の中で使っている。(第3時)

【知識・技能①】は、スピーチメモの記述内容から評価する。

自分の成長したことについて伝えるための語彙を話の中で使えるようにすることを目指して、人物の行動や気持ちを表す言葉を活用して、自分の伝えたいことが明確になるように指導する。話し方が不自然にならないように気を付けながら、話の中の人物の行動や気持ちを表す部分で、学習した語句や自分で見つけた語句を活用している児童を「おおむね満足できる」状況（B）とした。

具体的には、語彙の学習後にスピーチメモを見直す際、人物の行動や気持ちを表している語句一つについて、似た意味の言葉の中から自分が伝えたいことをどの言葉が的確に表しているかを考え、文意に沿って自分の伝えたい様子に適していると思う語句を選んで使っている児童について、様子や気持ちを表す語句を理解して使うことができていると判断して「おおむね満足できる」状況（B）とする。

一方、語彙の表の中から似た意味の語句を見付けられなかったり、どの語句が一番適しているか考えられなかったりする「努力を要する」状況（C）と判断した児童には、児童が伝えたい人物の様子や気持ちについて、「〇〇さんは具体的にどんなことをしていたか」「〇〇さんはどんな表情をしたか」などについて問い掛け、イメージを具体的にさせてから自分の伝えたいことを的確に表す語句を選んで活用できるようにしていく。

なお、人物の行動や気持ちを表している語句一つについて、自分が伝えたいことを伝えるために一番ふさわしいと思う語句を文意に沿って選び使った上で、他の語句についても検討し、一番ふさわしいと思う語句を選んで使っている児童を「十分満足できる」状況（A）とする。

(2)「思考・判断・表現」の評価

【思考・判断・表現①】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(第5時)

【思考・判断・表現①】は、どのように表現を工夫しようとしたかを書いたスピーチメモの内容とスピーチメモを基に話している様子の観察、児童の相互評価の内容から評価する。

ここでは、話の中心や場面を意識して聞き手に分かりやすく伝えるために、言葉の抑揚や強弱、間の取り方など表現の工夫について指導する。また、相手の方に視線を向けるだけでなく、相手を見て話すことで、話したことが十分に伝わっているかを判断したり、聞き手の反応を見ながら話したりで

きることについても指導する。伝えたいことが伝わりやすくなるように抑揚や強弱、間の取り方を工夫しようと考えたことをスピーチメモに書き、それを基にして聞き手に伝わるように表現を工夫し、相手を見て話している児童を「おおむね満足できる」状況（B）とする。

具体的には、話の中心を明確にして伝えるために、一番伝えたいことについて抑揚や強弱、間の取り方を考えてスピーチメモに書き、聞き手の反応を捉えながら工夫が聞き手に伝わるように話していれば、表現を工夫して話していると判断し、「おおむね満足できる」状況（B）と評価する。聞き手に伝わるように話していたかどうかについて、教師による観察と、聞き手の児童の相互評価用ワークシートの記述内容からも評価する。

一方、自分が一番伝えたいことを伝えるためにどのように表現を工夫するか考えられなかったり、表現を工夫して話したりすることができずにいる「努力を要する」状況（C）と判断した児童には、一番伝えたい部分について、教師がいろいろな表現の仕方で実際に話して見せ、「どの表現の仕方が一番はつきり伝えていると感じたか」「どのように書き込むと話しやすいだろうか」などと問い掛け、児童が表現の工夫を考えて書き込み、話し方に生かすことができるようにしていく。

なお、自分が一番伝えたい部分を明確にして伝えるために、表現の工夫を考え、聞き手の反応を捉えながら話した上で、他にも表現の工夫ができるところがないか考え、聞き手に分かりやすく伝わるよう表現を工夫して話している児童を「十分満足できる」状況（A）とする。

（3）「主体的に学習に取り組む態度」の評価

【主体的に学習に取り組む態度①】積極的に、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、今までの学習を生かして聞き手に伝わるように話そうとしている。（第6時）

【主体的に学習に取り組む態度①】は、自分が一番伝えたいことについて、表現を工夫して伝えようと考えたことを書き込んだスピーチメモの記述や、表現を工夫して話している様子から評価する。

本単元においては、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方など、話し方の工夫に重点を置いて学習する。そのために、まず話の中心を「自分が一番伝えたいこと」として意識させ、友達や教師との関わりの中で自身の学びを見つめて、聞き手に伝わるように話し方を工夫して話すことができるよう試行錯誤を図らせていく。第1時で学習した話し方の工夫を参考に、友達の話を聞いて話し方の工夫に気付いたり、自分でも取り入れようと考えたりしている様子が確認できた児童を「おおむね満足できる」状況（B）とする。

具体的には、友達の発表や第1時で学習した話し方の工夫について振り返りながら、自分の一番伝えたいことを聞き手に伝えるために話し方をどのように工夫すれば良いか考え、スピーチメモに書き込み、それを基に自分の話し方を試行錯誤していれば、学習を生かして話そうとしていると判断し、「おおむね満足できる」状況（B）と評価する。

一方、友達や教師との関わりを通して、自分の一番伝えたいことを聞き手に伝えるための表現の工夫が考えられず、スピーチメモに書き込む様子が確認できない「努力を要する」状況（C）と判断した児童は、教師が話し方の工夫について一緒に確認し、「強くはつきりと話した方が良い部分はどこか」「間を取るなら、どの言葉の後にどのぐらい取ると良いと思うか」などについて問い掛ける。実際に教師が話してみせ、自分の一番伝えたいことについて話す際にはどの表現の工夫だと良いかを考えることができるように支援していく。

なお、話の全体を見通し、自分の一番伝えたいこと以外の部分でも積極的に表現を工夫して話そうとしており、学習中の友達の表現の工夫を参考にしたり、進んで助言を求めたりしながら試行錯誤を行う中で言葉の持つ良さに気付いているということがスピーチメモや発表や振り返りの記述の変容から確認できる児童は「十分満足できる」状況（A）にあるとする。

11 本時の計画

(1) 本時の指導に当たって

本時は、前時までの話し方の工夫や語彙の学習を生かして、自分の話の中心が伝わるように聞き手の反応を捉えながら話し方を工夫して話す学習である。自分の伝えたいことが聞き手に伝わるようにするには、どのように話し方を工夫すると良いか考えて話すこと、相手を見て聞き手の反応を捉えながら話すことで聞き手に話の中心が伝わりやすくなることを児童に理解させたい。また、途中で振り返りを行わせ、話し方の工夫の仕方にはいろいろな方法があることや、相手や場に応じた話し方の工夫があることに気付かせていきたい。

(2) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問及び指示 ・予想される児童の反応	形態	指導上の留意点	評価
導入 5分	1 本時の課題を知る。 聞いている人の反応を見ながら、伝わるように話し方を工夫しよう。 ○今日の学習のねらいは、話の中心や話す場面を意識して、話し方を工夫して話すことです。特に、聞いている人がどんな反応をしているかを見ながら話しましょう。	一斉	・本時は、前時までの話し方の工夫について確かめ、相手の反応を見ながら聞き手に伝わるように話し方を工夫していく学習であることを知らせる。 <u>手立て3</u> <u>身に付けさせたい資質・能力を指標とした見取りによる支援</u> 「話の中心を意識する」「話す場面を意識する」「話し方を工夫する」ことを本時のねらいとして児童に知らせ、課題意識をもたせる。 ・本時はグループで練習に取り組むことを伝える。	[思考・判断・表現①] <u>観察・ワークシートの記述</u> ・伝えたいことが伝わりやすくなるように、抑揚や強弱、間の取り方を工夫しようと考えたことをスピーチメモに書き、それを基にして聞き手に伝わるように表現を工夫し、相手を見て話しているかの確認
展開 35分	2 聞き手の反応を捉え、話し方の工夫について考え、グループの友達の前で話す。 ○今から○○さんの話をみんなで聞きましょう。話のどの部分でどのように工夫しているか、気付いたことを発表しましょう。 ○意識して練習したいことをスピーチメモに書きましょう。 3 話す活動について振り返る。 ○グループでの話し方について振り返りましょう。相手を見て話すことはできましたか。 ・聞いている人を見て話せたよ。	グループ 一斉	・前時までの話し方の工夫について確かめさせる。 ・抽出児童に、聞き手を見て話すことを意識させ、全体の前で話をさせる。聞き手と話し手のそれぞれの立場から気付いたことを発表させる。相手を見て話すことで、聞き手に伝わっているかが分かり、反応を見て聞き手に伝わるように話し方を工夫していく大切さに気付かせていく。 ・これまでの話し方の工夫の学習を参考に、本時で意識して工夫して練習していきたいことをワークシートに記入させる。 ・グループで練習に取り組ませる。話す際は、学級の友達全員の前で話すような話し方にさせる。一人ずつ交代で話すようにさせる。聞き手の児童には、話し手の児童の良かった点について挙げさせるようにする。 ・グループでの話す活動について振り返らせ、振り返ったことをワークシートに書かせ、発表させる。	

	- 時々、見る事ができたよ。 ○聞いている人の様子から分かったことは何ですか。 ・聞いている人がうなずいてくれたときに、話が伝わっているんだなと思ったよ。 ・みんなが集中して聞いてくれるように、伝えたいところはゆっくりはっきり話したいな。 ・話すときの気持ちの込め方を工夫したいな。うれしいところはもっとうれしいという気持ちを込めて話してみよう。		<u>手立て1</u> <u>学びにつながる振り返りの場の設定</u> 「相手を見て話すことはできましたか」「相手を見て話し、聞いている人の様子から分かったことは何ですか」と発問し、相手を見て話す際の聞き手の反応で気付いたことについて振り返らせる。 ・もっと工夫してみたいことを書き加えさせ、練習に取り組ませる。	
終末 5分	5 本時の振り返りと次時予告を聞く。	一斉	・本時の導入で児童に示したねらいを想起させ、本時の感想をワークシートに書かせる。数名の児童に発表させる。次時は、これまでの学習を生かして学級の友達全員に話す活動に取り組むことを知らせる。	

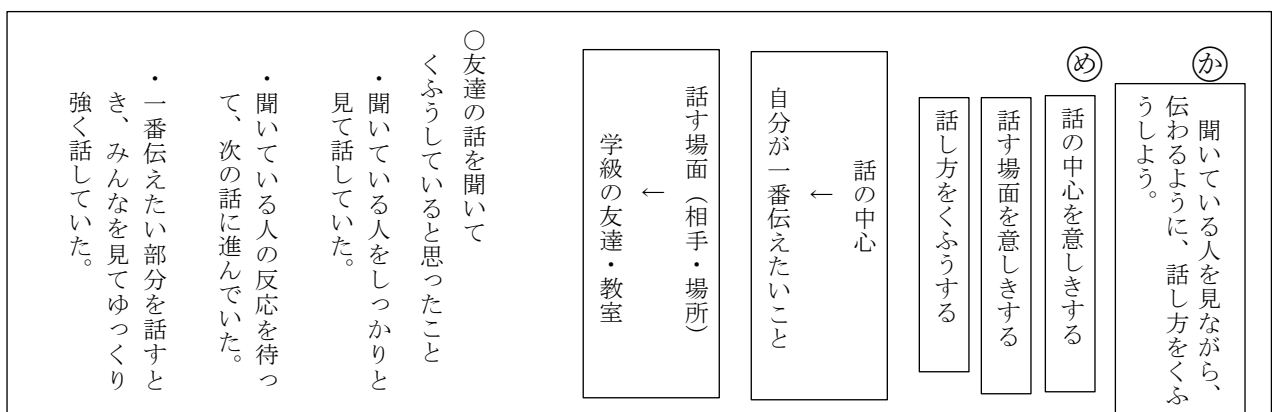
(3) 本時における評価の実際

評価の観点	評価規準（B）	十分満足できる状況（A）	努力を要する状況の児童への手立て
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」において、話の中心を明確にして伝えるために、一番伝えたいことについて抑揚や強弱、間の取り方を考えてスピーチメモに書き、聞き手の反応を捉えながら工夫が聞き手に伝わるように話している。	自分が一番伝えたい部分を明確にして伝えるために、表現の工夫を考え、聞き手の反応を捉えながら話した上で、他にも表現の工夫ができるところがないか考え、聞き手に分かりやすく伝わるよう表現を工夫して話している。	一番伝えたい部分について、教師がいろいろな表現の仕方です実際に話して見せ、「どの表現の仕方が一番はっきり伝えていると感じたか」「どのように書き込むと話しやすいだろうか」などと問い掛け、児童が表現の工夫を考えて書き込み、話し方に生かすことができるようにしていく。

(4) 準備物

教科書、ノート、ワークシート、児童用タブレット、大型テレビ

(5) 板書計画



研究 主題	自分の考えを深め、伝え合うことのできる児童の育成 — 「話すこと・聞くこと」の授業づくりと系統的・段階的な指導の工夫を通して —
----------	---

第4学年国語科学習指導案

指導月日 令和2年10月23日

所属校名 登米市立北方小学校

氏名 小野寺 紀子

1 単元名 「話の中心をはっきりさせて、調べたことをほうこくしよう」

2 単元の目標

- (1) 考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕(2)ア
 (2) 相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。〔思考力，判断力，表現力等〕A(1)イ
 (3) 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力，人間性等〕

3 単元で取り上げる言語活動

言語活動：調べたことを，話の中心を明確にし，聞き手に伝わるように話す活動。

(関連：〔思考力，判断力，表現力等〕A(2)ア)

教材：「調べたことをほうこくしよう」（東京書籍 新しい国語4下）

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	①「話すこと・聞くこと」において，相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A(1)イ)	①粘り強く，話の構成を考え，今までの学習を生かして，聞き手に伝わるように調べたことを説明しようとしている。

5 単元観

本単元は，第3学年及び第4学年の内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」の(1)「イ 相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること」を指導事項として設定したものである。

本単元では，相手に分かりやすく伝えるために，話の構成を考えて話す大切さに気付かせたい。そのため，話の中心を明確にさせるとともに，内容のまとまりや話す順序など，どのように話を組み立てて話すか聞き手に伝わりやすいかを考えさせ，話すことができるようにする単元である。内容を分かりやすく伝えるための工夫として，話の内容や順序に合わせて適切な資料を活用させていく。また，相手に分かりやすく伝えるためには，学習と既習事項を生かして話し方をどのように工夫すると良いかを考えて話すことができるようにする。単元を通して，各学習活動の振り返りを生かしながら，資

料提示を含めた話の構成の仕方や話し方の工夫を学び、自分の話し方に生かすことができるようにしていく。

6 児童の実態〔第4学年1組28名〕

児童は、第3学年で、調べた事柄を筋道立てて整理し、資料を見せながら聞き手に分かりやすく話すことについて学習してきている。また、第4学年で学習した単元「伝えたいな、わたしが成長したこと」では、自分の伝えたいことを伝えるために、話の中心を明確にして、言葉の抑揚や間の取り方などを工夫して話すことについても学習している。しかし、これまでの学習では、相手の立場を踏まえ、どんな情報を知っていて、どんな情報が必要かを考えた内容になっていなかったり、聞き手に伝わるように順序を考えられていなかったりと、話の構成を考えて話している児童は少ない。そこで、「話すこと・聞くこと」において、相手を意識して事例や理由を準備したり、話の中心を明確にして聞き手に分かりやすく伝える話の構成にしたりすることができるように指導していく必要がある。

7 指導観

単元の導入で「上学年となった4年生として、ふだんの生活で友達はどうしているのか気になっていることを調べてみよう」という課題を設定する。4年生について調査するとともに、1つ上の学年として4年生児童に身近で高学年である5年生の生活を調べさせていくことで、調査内容に実感を持たせたり、報告を聞いて考えを持たせやすくしたりする。「北方レンジャー！（学校キャラクター）北方小生活調査隊！北方小学校の4・5年生の生活を調べて報告しよう」と児童に提示することで、目的意識や学習への意欲を持続させながら学習に取り組ませていきたい。また、本単元では、調べて報告する活動を通して話の構成を考えさせていくことから、少人数のグループで1つのテーマに取り組ませていく。

児童の実態から、調べたことを報告するといった話す活動では、話の中心を明確にし、相手に伝わりやすい話の構成にすることや相手のことを踏まえた事例の内容や提示の仕方を工夫して話すことの大切さを理解させる必要がある。

始めに、これまでの学習を振り返らせ、相手に伝わりやすい報告にするためには、話の構成や使用する資料の内容や提示の仕方に工夫が必要であることを理解させる。また、報告という形式での話す活動であることから、相手の反応を見ながら、話し方を工夫していく必要があることを押さえさせる。次に、グループで取り上げるテーマを決めさせ、結果を予想したり、知りたいことを選んだりしながら必要なアンケートを作成し、集計させる。グループで一番伝えたいことを意識させながら、相手に伝わりやすいように報告するには、どんな話の構成にしたら良いかを考えて話し合わせ、資料や発表メモを作成させる。グループごとに話す練習に取り組ませたり、他のグループと報告を聞き合ったりさせ、振り返りを基に、伝えたいことがより伝わりやすくなる話の構成や話し方になるよう工夫させていく。発表の場を設けることで、確実に相手を意識した報告ができるようにさせていきたい。

8 研究主題との関連

本研究は、自分の考えを深め、伝え合うことのできる児童の育成を目指している。そのために、以下の手立てを講じて研究主題に迫っていく。

(1) 学びにつながる振り返りの場の設定と発問の工夫

聞き手に伝わるように話の構成を考えられているか、聞き手が分かりやすい事例の提示になっているか、聞き手の反応を見て話すことができているかについて、児童に振り返らせる場を第6、7、8時で設定していく。振り返りは、教師の発問を通し、本単元で指導する観点に基づいて行わせる。振り返りを通して、聞き手が分かりやすいような話の構成の仕方、相手のことを踏まえた事例の示し方、伝わりやすい話し方などを他のグループの実際の報告の様子など具体的な姿で学び、自分や自分のグ

ループの報告に生かすことができるよう、振り返りで気付いたことを発表させ、学級全体で共有していく。

(2) 可視化のためのメモの活用

第7時で、他のグループの発表を聞く際、分かりやすいと思った話の順序や話し方の工夫など、話の構成に着目してメモを取らせていく。発表を聞いてメモを取ることを通して、聞き手の立場で分かりやすい構成について考えたり、他のグループの構成の工夫に気付き、自分のグループの構成に生かすようにさせたりしていく。

また、第8時では、全グループの報告を聞き、話の構成に着目してメモを取らせていく。聞き手の立場で分かりやすいかどうかを考えながら聞かせる。メモを基に、第9時で学習について振り返る際、話の構成について各グループがそれぞれ工夫していた点やどのグループも共通して工夫していた点などを全体で共有し、聞き手が分かりやすい話の構成への理解を深めさせていく。

(3) 身に付けさせたい資質・能力を指標とした見取りによる支援

指導と評価を一体化させ、児童に確実に「話すこと・聞くこと」の力を身に付けさせたい。本単元では、「話の中心をはっきりさせる」「聞き手が分かりやすい話の組み立てにする」を観点として指導と見取りを行うので、この2点を本単元のめあてとして毎時児童に知らせ、課題意識を持たせる。更に、「聞き手が分かりやすい話の組み立てにする」ことの具体として、「調査結果と意見を分ける」「内容のまとめりごとに話す」「始め、中、終わりになるように組み立てる」など児童がイメージしやすく振り返りの観点にできるものを、毎時間児童に提示していく。基準を設定し、到達が見られない児童には具体的な支援を行い、どの児童にもできるようになったという実感を持たせたい。

9 単元指導と評価の計画（9時間扱い 本時6／9）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法等
1	○学習の見通しを持つ。 北方小4・5年生の生活を調べて報告しよう。 ○本単元の学習のめあてを知る。 ○これまでの自分たちの報告を振り返り、聞き手に分かりやすい発表にするために必要な要素に気付く。	- 自分たちの生活で気になっていることを調べ、分かった点や考えを報告する学習であることを知らせ、児童の学習への意欲を高める。 - グループごとに取り組むテーマを決め、そのテーマに沿ってアンケートを取り、分かったことや考えたことについて資料を提示しながら報告するという学習の流れを知らせる。また、聞き手は4・5年生全員であることを知らせる。 - この単元の学習のねらいを示し、学習の見通しが持てるようにする。 手立て3 身に付けさせたい資質・能力を指標とした見取りによる支援 「話の中心をはっきりさせる」「聞き手が分かりやすい話の組み立てにする」を本単元の学習のめあてとして児童に知らせ、課題意識を持たせる。 - これまでの学習で資料を提示しながら報告してきた活動を振り返らせ、聞き手が分かりやすい報告について気付いたことを話し合わせる。学習のめあてと関連させながら、調べたことを報告する際には、話の中心を明確にし、聞き手が分かりやすい話の構成、聞き手が分かりやすい話し方を意識する必要があることを確かめさせる。 - 教師が、内容が同じでも聞き手が違う場合の資料の提示や話し方を変えた例を見せ	

		る。また、同じ聞き手に話の構成を変えて話す例を見せる。児童には聞き手の立場でどのような話し方や提示の仕方が分かりやすいかを考えさせる。発表する際は、聞き手に取って分かりやすい部分とその根拠を明確にさせることで、自分たちの発表を工夫する場面を具体的に考えやすくしていく。 グループで取り組むテーマを決めさせる。	
2・3	○アンケートの作り方を知る。 ○必要な項目を考え、アンケートを作成する。 ○アンケートを集計する。	- テーマについて一人一人の生活の様子を調べる必要があることを確かめさせる。調べる方法として、アンケートの作成の仕方を知らせる。 - テーマについて、グループで調べたい項目を話し合い、アンケートを作成させる。 - アンケートの結果を予想し、説明に必要な資料を考え、話し合わせる。 - アンケートを集計し、結果をまとめさせる。	[知識・技能①] <u>ワークシートの記述・観察</u> テーマに沿って自分なりに必要だと考えた項目一つとそれについて予想される回答をワークシートに書き、それを基に話し合い、聞き手を意識して報告に必要なアンケート項目や資料を決めているかの確認
4・5	○アンケートの結果から分かったことや気付いたことを話し合い、まとめる。 ○発表に必要な資料を作る。	- 前時のアンケートの結果から、分かったことや気付いたことをグループで話し合い、まとめさせる。 - 本単元のめあてを再度確かめさせ、聞き手が分かりやすい報告にするために、アンケートの結果を表やグラフに表させる。 手立て3 <u>身に付けさせたい資質・能力を指標とした見取りによる支援</u> 「話の中心をはっきりさせる」「聞き手が分かりやすい話の組み立てにする」を本単元の学習のめあてとして児童に知らせ、課題意識を持たせる。	
6	○聞き手が分かりやすい報告になるよう、話の構成を考え話し合う。	- 本単元のめあてを再度提示し、聞き手に分かりやすい話の構成を考えさせていく。 手立て3 <u>身に付けさせたい資質・能力を指標とした見取りによる支援</u> 「話の中心をはっきりさせる」「聞き手が分かりやすい話の組み立てにする」を本単元の学習のめあてとして児童に知らせ、課題意識を持たせる。 - 前時のグループでの話し合いを基に、どのような話の構成にすると聞き手に伝わりやすいか考えさせる。 - ワークシートを活用し、始めに話の中心を明確にさせ、グループ全員で確認させる。その後、内容のまとまりごとに、話す順序、表やグラフの提示の仕方について考えさせる。ワークシートには、グループ内の誰がどのように話の構成について意見を出したのか、話し合いの経過が分かるように、付箋を活用させていく。また、ワークシートに書き加えたらタブレットで記録させ、話し合いの経過を振り返ることができるようにさせていく。 - 話の構成が決まったら、発表メモを作成させる。 - 発表練習をしながら、付け加えたり、工夫したりして良いことを伝え、変更したこと	[思考・判断・表現①] <u>観察・ワークシートの記述</u> 内容のまとまりごとに自分が考えた順序で話を構成し、構成した理由とともにワークシートに表し、話し合いで友達の構成と比べながら、相手に伝わりやすいのはどんな順序か、話の中心をはっきりさせた話になっているかを考えているかの確認

	○練習の様子を振り返り，更に工夫したい点を考えて練習させる。	分分かるように，付箋やタブレットで記録させていくようにする。 ・グループで考えた話の構成について，発問を基に振り返らせる。 手立て1 <u>学びにつなげる振り返りの場の設定と発問の工夫</u> 「一番伝えたいことは強調して伝えられていますか」「聞き手に伝わりやすい話の順番になっていますか」「内容は聞き手に伝わりやすいまとまりになっていますか」と発問し，タブレットで自分たちの話す様子を見て振り返ることで確かめさせる。 ・分かりやすく伝えるために工夫した方がよいところを出し合い，再度練習し，改善できているかどうかを確認させる。	[主體的に学習に取り組む態度①] ワークシートの記述・観察 ・学習した話の構成の仕方や相手を踏まえた事例の示し方を参考に，自分なりに話の構成を考えたり，友達の考えと比べたりすることで，聞き手がより分かりやすい構成を考えようとしているかの確認
7	○報告の練習に取り組み，話の構成について見直す。 ○他のグループの発表を聞いて気付いた良い点を挙げる。 ○グループ同士の発表を通して，気付いたことをまとめる。	・前時の練習を基に，他グループの友達へ発表し，より分かりやすい伝え方になるよう話の構成を工夫していくことを伝える。 手立て3 <u>身に付けさせたい資質・能力を指標とした見取りによる支援</u> 「話の中心をはっきりさせる」「聞き手が分かりやすい話の組み立てにする」を本単元の学習のめあてとして児童に知らせ，課題意識を持たせる。 ・3つのグループをまとまりとし，交替で発表させる。 手立て2 <u>可視化のためのメモ</u> 話の構成について他のグループの報告を聞き，分かりやすいと思った話の順序など，話の構成の仕方について気付いたことについてメモを取らせる。 ・聞き手には，めあてを意識しながら発表を聞くようにさせ，発表したグループの良かったところを挙げさせる。 ・全グループの発表が終わった後，他のグループの発表について振り返らせる。 手立て1 <u>学びにつなげる振り返りの場の設定と発問の工夫</u> 「他のグループの発表では，一番伝えたいことは強調して伝えられていますか」「聞き手に伝わりやすい話の順番になっていますか」と発問し，他のグループの発表について振り返ることで確かめさせる。 ・次に自分のグループの発表について振り返らせる。 手立て1 <u>学びにつなげる振り返りの場の設定と発問の工夫</u> 「聞き手の様子からどの部分がよく伝わっていたと感じましたか」「聞き手の様子からどうしたらもっと伝わるようになると感じましたか」と発問し，聞き手の様子を見て感じたことを振り返ることで確かめさせる。	

	○振り返りを生かして、再度発表練習に取り組む。	・他のグループの発表から気付いたことの中から、自分のグループの発表に生かしたいことや新たに考えた発表の工夫を話し合わせる。 ・話し合いを基に、グループの発表練習に取り組ませる。	
8	○これまでの練習を基に発表する。 ○感想を発表する。	・本時は、前時までの練習を生かして4・5年生全員に向けて発表させる。 ・学習のねらいを示し、見通しを持たせる。 手立て3 身に付けさせたい資質・能力を指標とした見取りによる支援 「話の中心をはっきりさせる」「聞き手が分かりやすい話の組み立てにする」を本単元の学習のめあてとして児童に知らせ、課題意識を持たせる。 ・発表する際には、前時までの練習を生かすとともに、聞き手に伝わっているかどうかを確かめながら話すようにさせる。 ・聞き手は、各グループの発表を聞き、分かりやすく伝えるために話の構成を工夫していると気付いた点についてメモを取らせる。 手立て2 可視化のためのメモ 他のグループの報告を聞き、分かりやすいと思った話の順序や情報の内容や資料の提示など、話の構成の仕方について気付いたことについてメモを取らせる。 ・全グループの報告発表の後で、数人の児童に感想を発表させる。 ・感想を全体で共有した後、自分のグループの発表について個人で振り返らせ、それを基にグループの全員で発表について振り返らせる。 手立て1 学びにつながる振り返りの場の設定と発問の工夫 「話の中心をはっきりさせて伝えることができたか」「聞き手が分かりやすい順序で話をすることができたか」と発問し、振り返ることで話の構成の工夫について確かめさせる。	
9	○本単元の振り返りを行う。	・前時で発表を聞いた際にとったメモや終末の振り返りを基に、分かりやすく伝えるための話の構成について全体で共有する。 ・発表や発表後の感想から、伝えたいことを伝えることができたかどうか、これからどんな生活や学習の場面で活用したいかについて振り返り、自分の考えをワークシートにまとめさせる。	

10 観点別学習状況の評価の進め方

(1)「知識・技能」の評価

【知識・技能①】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（第5時）

【知識・技能①】は、アンケートや資料作りに関わる話合いの様子やワークシートの記述内容から評価する。

テーマについて調べる際、話し手と聞き手が興味を持って活動に取り組めるよう自分たちでアンケートを作成させる。回答を予想しながらアンケートを作成したり、まとめたりするなど、話す目的や相手を意識してどのような情報が必要かを考え、取捨選択できるよう指導する。目的に合わせて話の中心をはっきりさせ、聞き手である4・5年生児童に伝えるための事例を考え、回答を予想しながらアンケートを作成したり、必要な資料について話し合ったりしている児童を「おおむね満足できる」状況（B）とした。

具体的には、テーマに沿って自分なりに必要だと考えた項目一つとそれについて予想される回答をワークシートに書き、それを基に話し合い、聞き手を意識して報告に必要なアンケート項目や資料を決めることができている児童について、グループのテーマに沿った情報を集めて活用することを理解しており、求める情報と得られた情報との関係について理解できていると判断して「おおむね満足できる」状況（B）とする。

一方、テーマに沿ってどんなアンケート項目が必要か考えられなかったり、回答が予想できなかったりする「努力を要する」状況（C）と判断した児童には、テーマについて、「〇〇が好きか嫌いかという情報は必要か」「〇〇をしている人が具体的にしていることは何だろうか」などと問い掛け、テーマに基づいて知りたいことを具体的にイメージさせてからアンケートを作成したり、必要な資料について話し合ったりできるようにしていく。

なお、テーマに沿って自分なりに必要だと考えた項目を二つ以上とそれについて予想される回答をそれぞれワークシートに書き、話合いでその意見を提示し、報告に必要なアンケート項目や資料を決めることができている児童を「十分満足できる」状況（A）とする。

（2）「思考・判断・表現」の評価

【思考・判断・表現①】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。（第6時）

【思考・判断・表現①】は、どのように話を構成するかを書き込んだワークシートと構成についてグループで話し合っている様子の観察から評価する。

ここでは、話の中心を明確にさせ、相手に伝わりやすいように内容のまとまりや話す順序を考えて話すことを指導する。また、事例を挙げる際は、伝える相手に合わせて必要な情報はどの程度かを考えて提示することについても指導する。伝えたいことが伝わるように、内容のまとまりを意識して話す順序を考え、必要な事例を取り入れていることを理由を含めてワークシートに書き、話合いで考えを出している児童を「おおむね満足できる」状況（B）とする。

具体的には、話の中心を明確にして伝えるために、内容のまとまりごとに自分が考えた順序で話を構成し、構成した理由とともにワークシートに表し、話合いで友達の構成と比べながら、相手に伝わりやすいのはどんな順序か、話の中心をはっきりさせた話になっているかを考えていけば、話の中心が明確になるよう話の構成を考えていると判断し、「おおむね満足できる」状況（B）と評価する。

一方、伝えたいことを伝えるために、内容のまとまりを意識したり、どのような順序で話すかが良いかを考えたりできずにいる「努力を要する」状況（C）と判断した児童には、「テーマについて一番伝えたいことは何か」「聞いている相手が知っていることと知らないことはどんなことだろうか」などと問い掛け、児童が内容のまとまりを意識して構成を考えることができるようにしていく。

なお、話の中心を明確にして伝えるために、内容のまとまりごとに自分が考えた順序で話を構成するとともに、伝える相手を意識してどの事例をどの程度の内容で取り上げるか、構成の中ではどこに組み込むと良いかについて考え、友達の考えと比べながらより良い話の構成について考えている児童を「十分満足できる」状況（A）とする。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

【主体的に学習に取り組む態度①】粘り強く、話の構成を考え、今までの学習を生かして、聞き手に伝わるように調べたことを説明しようとしている。（第8時）

【主体的に学習に取り組む態度①】は、グループで調べたことの中で自分たちが一番伝えたいと考えたことを明確にし、聞き手に分かりやすい話の構成になるよう考えたことを書き込んだ発表メモの記述や、聞き手に伝わるように工夫して説明している様子から評価する。

本単元においては、話す相手を意識して、事例を示したり、話の構成を考えたりして話すことに重点を置いて学習する。そのために、まず話の中心を意識させ、友達や教師との関わりの中で自身の学びを見つめて、聞き手に伝わるような話の構成を考えることができるようにさせていく。第1時で学習した報告の際の話の構成の仕方や相手を踏まえた事例の示し方を参考に、自分なりに話の構成を考えたり、友達の考えと比べたりすることで、聞き手がより分かりやすい構成を考えようとしていることが確認できた児童を「おおむね満足できる」状況（B）とする。

具体的には、第1時で学習した報告の際の話の構成や話し方の工夫について振り返りながら、テーマに沿って一番伝えたいことを聞き手に伝えるためにどのように話を構成すれば良いか考え、発表メモに書き込み、グループの友達の考えを比較しながら話の構成について試行錯誤している様子や発言、記述があれば、学習を生かして構成を考えて話そうとしていると判断し、「おおむね満足できる」状況（B）と評価する。

一方、友達や教師との関わりを通して、一番伝えたいことを明確にできず、聞き手に伝わりやすいように話の構成を考えている様子が確認できない「努力を要する」状況（C）と判断した児童は、教師がワークシートや発表メモと一緒に確認し、「一番伝えたいことは何か」「どのまとまりから話すと伝わりやすいと思うか」「自分の考えは誰の話の構成の仕方に似ているか」などについて問い掛ける。児童の様子に応じて、部分や事例など児童が考えやすいところから構成につなげていくように支援していく。

なお、話の全体を見通し、伝わりやすい話の構成とその理由を考え、学習中の友達の表現の工夫を参考にしたり、進んで助言を求めたりしながら試行錯誤を行う中で聞き手を意識した話の構成にし、更に聞き手に伝わりやすくするために事例の挙げ方や話し方の工夫の必要性について考えるなど、言葉の持つ良さに気付いていることがグループの話合いのワークシートや振り返りの記述の変容から確認できる児童は「十分満足できる」状況（A）にあるとする。

11 本時の計画

(1) 本時の指導に当たって

本時は、前時までのアンケートのまとめや報告に必要なと考えられる資料の作成などの学習を生かして、話の中心が伝わるように話の構成を考える学習である。テーマに沿って伝えたいことが聞き手に伝わるようにするには、どのように話を構成すれば良いか考えて話すこと、聞き手の立場を踏まえて事例をどのように取り上げるかを考える必要があることなどを児童に理解させたい。また、相手に伝わりやすくするためには、話し方にも工夫が必要であることも意識させていきたい。

(2) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問及び指示 ・予想される児童の反応	形態	指導上の留意点	評価
導入 5分	1 本時の課題を知る。 聞き手に伝わるように、話の組み立てを考えよう。	一斉	・本時は、前時までのグループの話合いを基に、どのような構成にすると聞き手に伝わりやすいか考える学習であることを知らせる。	

	○今日の学習のねらいは、話の中心をはっきりさせる、聞き手が分かりやすい話の組み立てにします。		手立て3 <u>身に付けさせたい資質・能力を指標とした見取りによる支援</u> 「話の中心をはっきりさせる」「聞き手が分かりやすい話の組み立てにする」を本単元の学習のめあてとして児童に知らせ、課題意識を持たせる。	
展開 35分	2 グループでどのような構成にするかを話し合う。 ○話し合う時は、まず内容のまとまりを確かめます。次に、話の中心について確かめます。その後、話の順序や資料をどこで出すかについて意見を出していきましょう。 ○自分の意見を付箋に書いて貼っていきましょう。付箋を貼ったらタブレットで写真を撮って記録しましょう。 ○話の組み立て方が決まったら、発表メモを書きましょう。話す練習をしながら、話の組み立ては変更して良いです。 3 話す活動について振り返る。 ○グループの話の組み立て方について振り返りましょう。一番伝えたいことは強調して伝えられていますか。 ・話の中心を決めていたから、資料を使って強調して説明できているよ。 ・できていると思うけど、もっと良い方法があるのかな。 ○内容は聞き手に伝わりやすいまとまりになっていますか。 ・理由、結果の一つ目と二つ目、自分の考えというふうに分けて伝えることにしたよ。聞いている人が、話がつながって分かりやすいように組み立てたよ。 ○聞き手に伝わりやすい話の順番になっていますか。 ・どんなテーマか、調べた内容、最後にみんながテーマについて考えたことを話すよ。 ○他のグループの意見を聞いて、自分のグループでも生かせそうな話の組み立て方や資料の示し方などはないか考え	グループ 一斉	・ワークシートを活用し、始めに話の中心を明確にさせ、グループ全員で確認させる。その後、内容のまとまりごとに、話す順序、表やグラフの提示の仕方について考えさせる。 ・ワークシートには、グループ内の誰がどのように話の構成について意見を出したのか、話合いの経過が分かるように、自分の考えを付箋に書かせ、貼らせていく。その都度、タブレットに記録させ、話し合いの経過を振り返ることができるようにさせていく。 ・発表メモを考える際には、どんな資料をどのように提示するかについても考えることを伝える。 ・発表練習をしながら、話す内容を付け加えたり、順番を変更するなど工夫したりして良いことを伝える。 ・グループで考えた話の構成について、発問を基に振り返らせる。 手立て1 <u>学びにつながる振り返りの場の設定</u> 「一番伝えたいことは強調して伝えられていますか」「聞き手に伝わりやすい話の順番になっていますか」「内容は聞き手に伝わりやすいまとまりになっていますか」と発問し、タブレットで自分たちの話す様子を見て振り返ることで確かめさせる。 ・振り返る際は、だれのどのような意見でそのような順序になったのかを確かめさせる。 ・それぞれのグループで振り返った後、グループで振り返った内容を発表させ、話の構成を考えた経緯や根拠を全体で共有させる。自分のグループでも活用できる考えはないかを	【思考・判断・表現①】 <u>観察・ワークシートの記述</u> ・内容のまとまりごとに自分が考えた順序で話を構成し、構成した理由とともにワークシートに表し、話合いで友達の構成と比べながら、相手に伝わりやすいのはどんな順序か、話の中心をはっきりさせた話になっているかを考えている様子の確認

	ましょう。 ・1グループのように、自分たちの予想を話す部分を入れて、結果と比べるのは、聞いている人が面白いのではないかな。		比べて考えさせる。 ・自分のグループの報告について、分かりやすく伝えるために工夫した方が良いところを出し合い、再度練習し、どちらが良いかを確認めさせる。	
終末 5分	4 本時の振り返りと次時予告を聞く。	一斉	・本時の導入で児童に示したねらいを想起させ、本時の感想をワークシートに書かせる。数名の児童に発表させる。次時は、他のグループの前で発表してみて、話の構成を再検討し、発表の練習をしていく活動に取り組むことを知らせる。	

(3) 本時における評価の実際

評価の観点	評価規準（B）	十分満足できる状況（A）	努力を要する状況の児童への手立て
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」において、話の中心を明確にして伝えるために、内容のまとまりごとに自分が考えた順序で話を構成し、構成した理由とともにワークシートに表し、話合いで友達の構成と比べながら、相手に伝わりやすいのはどんな順序か、話の中心をはっきりさせた話になっているかを考えている。	話の中心を明確にして伝えるために、内容のまとまりごとに自分が考えた順序で話を構成するとともに、伝える相手を意識してどの事例をどの程度の内容で取り上げるか、構成の中ではどこに組み込むと良いかについて考え、友達の考えと比べながらより良い話の構成について考えている。	「テーマについて一番伝えたいことは何か」「聞いている相手が知っていることと知らないことはどんなことだろうか」などと問い掛け、児童が内容のまとまりを意識して構成を考えることができるようにしていく。

(4) 準備物

教科書、ノート、ワークシート、児童用タブレット、大型テレビ

(5) 板書計画

